

2年2組 体育科学習指導案

授業日 平成25年10月17日(水) 3校時
 授業者 附属新潟小学校 教諭 山形 昭
 会場 体育館

1 単元名 「グラグラサーフィンで遊ぼう」 <A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び ~体のバランスをとる運動遊び~>

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の2内容のA体づくり運動に、次のように示されている。

運動
 (1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。
 イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などをすること。

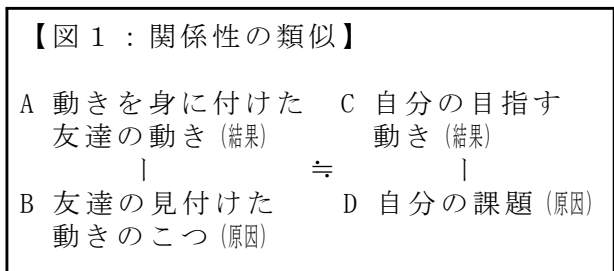
態度
 (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

思考・判断
 (3) 体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。
 ア 体を動かすと気持ちが良いことに気付き、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動したりするなど、楽しく運動できる行い方を選ぶこと。
 イ 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達のよい動きを見付けること。

本単元では、多様な動きをつくる運動遊びの(ア)体のバランスをとる運動遊びを取り上げ、その中でも「バランスを保つ動き」に重点を置いて、体の基本的な動きを身に付けさせる。具体的には、バランスボードに乗って、バランスを保つ動きを取り上げる。バランスボードとは、塩ビ管の板上に板を置き、その上に乗ってバランスを保つ用具である。この動きを扱う理由は、簡単に用具を用意することができ、多くの子どもに用具を確保できること、塩ビ管の直径を変えたりすることにより、動きの難易度を簡単に変えることができること、2点である。「バランスを保つ動き」に重点を置いた理由は、子どもの発達段階において、低学年は特にバランス感覚を養うことに適した時期であるからである。そのための「動きのこつ」を、自分の課題と照らし合わせて選択する力をつけることにより、子どもは、他の運動場面でも自分の課題とそその運動における動きのこつとを関係付けて考えようとする態度が養われ、生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくのである。

3 本単元で目指す姿と学びをつなぐ場面、「考えるすべ」

本単元で目指す子どもの姿は、自分の課題を解決するための動きのこつが分かり、バランスを保つ動きを身に付けることができる子どもである。具体的には、自分の運動課題を解決する方法(動きのこつ)から見いだし、バランスボードに乗ってバランスを保つことができる子どもである。



目指す姿にするためには、図1のように、自分の目指す動き(C)と自分の課題(D)とのつながりを、動きを身に付けた友達の動き(A)と友達の見付けた動きのこつ(B)とのつながりから関係付けることが必要である。そのために、動きを身に付けている友達の動きと自分の動きを比較させ、共通点や相違点を考えさせる。ここでの「動き」とは、動かす部位や動かす方、動きのタイミングのことである。すると子どもは、相違点に自分の課題が、共通点に動きのこつがあるのではないかと気付く。その後、見付けた自分の課題を解決できそうな動きのこつを実際に運動して確かめさせる。そして、子どもは、関係付けるすべを使って、自分の課題と友達の見付けた動きのこつをつなぎ、「動きを身に付けた友達の見付けた動きのこつ(B)を自分の課題(D)に取り入れれば、動きを身に付けた友達の動き(A)のように自分の目指す動き(C)を身に付けることができるのではないか」と課題を解決するための見通しをもつ。これが、よりよい動きを身に付けるために大事な学びをつなぐ場面である。

4 指導計画 全5時間(150)

《学習活動》

《働き掛け》

- ・直径の短い塩ビ管のバランスボードに乗って、バランスを保つ動きを行う。
- ・タイムを測定する。
- ・直径の長い塩ビ管のバランスボードに乗って、バランスを保つ動きを行う。
- ・めあてを立てる。
- ・動きのカルテ(ワークシート②)を記述する。

[1時間]

- 「グラグラサーフィンに乗って、波乗り遊びを楽しもう」という運動課題を設定し、直径の短い塩ビ管、直径の長い塩ビ管のバランスボードに乗って、バランスを保つ動きを行わせ、タイムを測定する。【問いを生むための働き掛け】
- 動きのカルテを提示し、どうしたらもっとうまくバランスボードに乗れるようになるのかを問う。【働き掛け1】

- ・動きのカルテを書いて気付いたバランスボードに乗るコツを考え、発表する。
- ・発表を聞いたり黒板を見たり自分の課題をワークシート③に記述する。
- ・自分の課題にあった動きのこつを自選んだり教えてもらったりしながら実際に試し、評価することで、課題解決のための見通しをもつ。(ワークシート④)。
- ・試しの運動を繰り返すことで、自分の課題に合ったこつを見いだすことができる。
- ・うまく乗るために必要な動きのこつを考え、ワークシート⑤に記述する。

[本時・1時間]

- 友達の見付けたバランスボードに乗るこつと自分の動きのカルテの共通点と相違点を整理させる。【働き掛け2】
- 友達からこつを教わったり板書されたのこつを選んだりしながら運動を行わせ、そのこつを評価させる。【働き掛け3】
- もっとうまくバランスボードに乗るために大切なこつを問う。【働き掛け4】

- ・ボールを背中に挟み、座ったり立ったり移動したりする。
- ・ボールをついて、1回転して捕る遊びをする。
- ・ボールを使って、バランス崩しゲームをする。
- ・Gボールの上に座ってバランスを保つ。

[2時間]

- 動きのカルテを提示し、どうしたらもっとうまく動きを身に付けられるかを問う。
- 動きができた友達の動きのこつを教わったり選んだりしながら運動を行わせる。

- ・前時までに使った遊びで「グラグラパーティー」をする。
- ・体のバランスを保つには、何が必要かを考え、ワークシートに記述する。

[1時間]

- 体のバランスをとる運動遊びに挑戦させる。
- 体のバランスを保つ動きのこつを問う。

5 指導の構想

「グラグラサーフィンに乗って、波乗り遊びを楽しもう」というストーリーを設定し、子どもにバランスボードに乗る動きを行わせる。まずは、「動きを確認しながら運動する時間」として、直径の短い塩ビ管のバランスボード(以下、低バランスボード)に乗って、バランスを保つ動きを行わせる。すると、バランスボードに乗れた子どもと、そうでない子どもが現れる。「乗れた、乗れない」の判断基準を明確にするために、バランスボードに乗っているタイムを測定させる。自分のタイムを知った子どもは、「バランスボードに乗る時間を長くしたい」と考える。また、低バランスボードで5秒以上乗れるようになった子どもには、直径の長い塩ビ管のバランスボード(以下、中バランス

ボード)に乗って、バランスを保つ動きを行う。乗れた子どもは「もっと高いバランスボード(以下、高バランスボード)にも乗れるようになりたい」「もっと長い時間乗っていられるようになりたい」などと考える。また、乗れない子どもは、「低(もしくは、中)バランスボードに乗れるようになりたい」と考える。このように、もっとうまくバランスボードに乗れるようになりたいと考える状態を問いをもった姿勢とする。子どももどんどん高バランスボードに乗れるようになりたいが、具体的な改善策が見いだせない子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1
動きのカルテを提示し、どうしたらもっとうまくバランスボードに乗れるようになるのかを問う。

「もっとうまくバランスボードに乗れるようになりたい」「もっと長い時間乗っていられるようになりたい」など、子どもは「どろろと滑る」「どろろと滑る」など、動きのカルテを提示し、自分の動きを振り返る。このとき、子どもは「腕は真っ直ぐ」など、動きのカルテで丸を付けたところやその他の発見した体や用具の動かし方について発表する。そのとき、「どれくらい広げたらいいのか」と、体や用具の動かし方の具

動きのカルテ

【うで】 ロケットのり ひこうきのり その他
(とじる) (ひろげる) ()

【ボード】 ユラユラのり ピタッとのり その他
(うごかす) (うごかさない) ()

そのほかのこつ(顔、ひざ、足のいちなど)

飛行機乗りの方がうまくいきそうだ。腕を広げた方が、もっとうまくできるようになるのではないかと、比較するすべを使って、腕を広げて自分と腕を閉じている自分を比べて考える。このようにして、自分の体や用具の動かし方に着目させる。


働き掛け2
友達の見付けたバランスボードに乗るこつと自分の動きのカルテの共通点と相違点を整理させる。

「体やバランスボードをこうするとよく乗れるようになるのではないかと考えている」など、動きのカルテを書いて発表させる。子どもは、「飛行機乗り(腕は広げた方がよい)」「ユラユラのり(ボードを動かした方がよい)」など、動きのカルテで丸を付けたところやその他の発見した体や用具の動かし方について発表する。そのとき、「どれくらい広げたらいいのか」と、体や用具の動かし方の具

板書例

動きのこつ

- 【ボード】
- ・ピタッとのり
- ・ユラユラのり
-
- 【そのほかのこつ】
- ・下むきのり
- ・まえむきのり



- 【うで】
- ・ロケットのり
- ・ひこうきのり
-
- ・ひざまっすぐのり
- ・ひざまげのり

・足とじのり ・足ひらきのり

「どれくらい広げたらいいのか」と、体や用具の動かし方の具

働き掛け3
友達からこつを教わったり板書されたのこつを選んだりしながら運動を行わせ、そのこつを評価させる。

「あのこつをまねしてみよう」と考えた子どもに、「いろいろなこつがあるみたいだけれど、この中で大切なこつは何か」と問い、自分が試している友達のこつを評価させる。この時点で、バランスボードにうまく乗れる子どももいれば、できない子どももいる。こつを予想される。できない場合には、別のバランスボードにうまく乗るこつを、友達から教わったり、板書してあるバランスボードにうまく乗るこつを使って、自分の課題と友達のバランスボードにうまく乗るこつをつなぎ、「このこつを自分に取り入れれば、もっとうまくバランスボードに乗ることができるようになるための見通しをもつ。」「動きのこつを選ぼう」というように、繰り返しながらバラン

ボードにうまく乗るコツを試し、評価することで、自分の課題に合ったバランスボードにうまく乗るコツを見だし、バランスボードにうまく乗ることができるようなる。

**働き掛け4
どうして**

うまく乗れるようになったのかを問う。

もつとうまくバランスボードに乗れるようになった子どもに、もつとうまくバランスボードに乗るために大切なバランスボードに乗るための課題を解決できたことを想起し、ワークシートに、自分のバランスボードに乗るための課題を解決できなかったことを想起し、ワークシートに、自分の課題と友達のコツを比べて考え、課題を解決することができた子どもは、働き掛け1で記述した動きのカルテとは別のコツに変えたり、コツを増やしたりして、自分の課題に合ったコツを考える。これが、自分の課題を解決するための動きの**コツが分かり、バランスを保つ動きを身に付けることができる子ども**の姿である。

6 本時の構想 2 / 5 時間 (45分授業)

(1) ねらい

バランスを保つ運動遊び「バランスボードに乗る動き」を行って、自分の課題に合ったバランスボードにうまく乗るコツを見付けると、もつとうまくバランスボードに乗ることができると考えられる。



(2) 主張 (展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 低バランスボードに乗る動きを身に付けている子どもと、そうでない子どもがいる。
- バランスボードに乗っている時間を測定させる (ワークシート①)。自分のタイムを知った子どもは、「バランスボードに乗る時間を長くしたい」と考えている。
- 低バランスボードに乗る動きを身に付けた子どもには、中バランスボードや高バランスボードを提示したことで、子どもは学習意欲を失わずに、運動に励んでいる。
- 乗れない子どもは「低 (もしくは、中) バランスボードに乗れるようになりたい」と考えている。また、乗れた子どもは「もっと高いバランスボードにも乗れるようになりたい」「もっと長く乗れるようになりたい」と考えている。
- 具体的な改善策は、まだ分かっていない。
- ※ このように、意欲をもち、もつとうまくバランスボードに乗れるようになりたいと考えている状態を問うもった姿とする。
- ※ バランスを保つ動きができたかどうかは、バランスボードの上に5秒間乗れたかどうかで判断する。
- ※ 3～4人でグループを組み、バランスボードに乗る人、乗る人の補助をする人、タイムを測定する人などに役割を分担させて、順番に運動させる。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 動きのカルテを提示し、どうしたらもつとうまくバランスボードに乗れるようになるのかを問う。
- 指示「どうしたらもつとうまくできるようになるでしょうか。その謎を探るためにワークシート②を配ります」
- 発問「これは、動きのカルテです。バランスボードに乗るとき、腕を閉じるロケット乗りの方がよいのでしょうか。それとも、腕を広げる飛行機乗りの方がよいのでしょうか。また、ボードを動かさずユラユラ乗りと、ボードを動かさないピタッと乗りでは、どちらがよいのでしょうか。よいと思う方を丸で囲みましょう。別のやり方の方がよいと思ったら、その他のところに書きましょう」
- 指示「ワークシートの下の方にある四角には、上で書いたこと以外でうまく乗るためにはこれが大切だと思うことを書きましょう」
- 指示「それぞれのお試し広場に移動して試してみよう。まずは、捕まりながらやってみたり、その後、捕まらないでやってみたりしましょう」
- ※ 2年生という発達段階を考えて、書き方が分からない子どもには、分かりやすく説明する。

このようになり (C1)

- 自分の体や用具の動かし方に着目しながら動きのカルテを記述する。
 - ・僕は、飛行機乗りの方がよいと思います。
 - ・私は、ロケット乗りの方がよいような気がするけれど、よく分からないな。
 - ・僕は、ユラユラ乗りの方がバランスがとやすい。
 - ・私は、ピタッと乗りの方がうまくできそうだよ。
 - ・足の位置は、肩幅くらいに広くした方が安定する。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 動きのカルテを記述して気付いたバランスボードに乗るコツを問い、体や用具の動かし方ごとに分けて板書する。
- 指示「前回の授業で、もっとうまくなるために動きのカルテを書きました。今日の授業では、バランスボードにもっとうまく乗るためのコツを見つけてください。あなたが気付いた、バランスボードに乗るためのコツを教えてください」
- 指示「ロケット乗りと飛行機乗りでは、どちらがよいと思いましたか。それはなぜですか。どのくらいそうしたのですか。同じ考えの人は手を挙げましょう」
- 指示「その他に書かれていることも教えてください」
- 指示「友達の発表を聞いて、自分が考えたことと同じだという意見や自分とは違う、もしくは自分は気付かなかったという意見がありましたか。自分とは違う意見をワークシートに書きましょう」
- ※ 必要に応じて、体や用具の動かし方の具体的な姿を問い返す。
- ※ 動き方を説明する際に必要があれば模型を動かしながら説明する。
- ※ 観点ごとに、同じ考えの人は挙手させ、挙手した人数を板書する。すると子どもは、多くの人が自分と同じ意見だ、自分は多くの人と違う意見だということが分かり、相違点に自分ができない原因があるのではないかと考える。
- 自分の課題は何かを問う。
- 発問「うまく乗れなかった原因（理由）は何だと思えますか。ワークシート③に書きましょう」

このようになり (C2)

- 動きのカルテを記述して気付いたことを発表を聞いたり、板書を見たりして、自分のコツと友達のコツを比べる。
 - ・僕は、飛行機乗りの方がよかったです。しかも、腕は真っ直ぐではなく、軽く力を抜いて広げた方がうまくできました。
 - ・僕は、ユラユラ乗りの方がよかったです。そのとき、膝を軽く曲げるとよかったです。
 - ・足は狭すぎても、広すぎても駄目。私は、肩幅くらいがちょうどよい。
 - ・顔は、下を向くとグラグラした。真っ直ぐ前を見た方がグラグラしない。
 - ・多くの人が、僕と同じ意見だ。
 - ・〇〇さんは、私と違う意見だ。
 - ・あんなやり方があったのか。僕は、気が付かなかったな。
- 自分の課題に気付き、友達のコツを試したくなる。
 - ・多くの人が、僕と同じ考えだから、これが正しいのではないか。
 - ・〇〇さんは、私と違う意見だ。これは正しくないのかな。これがうまくできない理由じゃないのかな。試してみたいな。
 - ・もしかして、僕が気が付かなかったあのやり方がうまくできるためのコツなんじゃないかな。まねしてみよう。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 友達からコツを教わったり板書されたのこつを選んだりしながら運動を行わせ、そのこつを評価させる。
- 指示「『これがよくなかったからだ』といううまくできなかった原因（理由）や『これに気を付けるとできるかもしれない』という動きのこつが分かったでしょうか。でも、いろいろなこつがあるみたいだけど、この中でも大切なこつは何でしょうか。自分とは違うこつや気付かなかったこつを実際に運動して確かめながら、大切なこつをさがしてみよう」
- 指示「ワークシート④を見てください。自分がどのこつに気を付けてやっているのかが分かるように、試しているこつをここに書き、うまくいったかどうかをここに○か×で書きましょう。×だったら、別のこつを友達に聞いたり黒板を見たりして、試してみよう」
- ※ 3～4人でグループを組む、バランスボードに乗る人、乗る人の補助をする人、タイムを測定する人などに役割を分担させて、順番に運動させる。

このようになる (C3)

- 関係付けるすべを使って、自分のバランスボードにうまく乗るための課題と友達のバランスボードにうまく乗るこつとをつなぎ、もっとうまくできるようになるための見通しをもつ。
 - ・私は、ロケット乗りがよいと思ったけど、多くの方は飛行機乗りがよいて言っていた。みんなの言うように、やっぱり飛行機乗りは○だった。
 - ・腕は真っ直ぐではなく、軽く力を抜いて広げた方がうまくできたと言っていた。僕もそれに気を付けてやってみたら、うまくいきそう。○かな。
 - ・うまく乗れる〇〇さんは、ユラユラ乗りがよいて言っていた。試してみると、板が右に傾いたら左に力を掛けるような（重心を左右に動かす）ユラユラ乗りが

- 大切なんじゃないかな。
- ・僕は下むきのりがよいと思ったけど、うまくいかないな。×だな。
 - ・足の幅が狭かったみたいだ。私も足の幅を肩幅くらいに広くしてみたら、うまくできそうだったから、これは○だ。
 - ・何かうまくできないな。違うこつを試してみよう。
- 「動きのこつを選ぶ→試す→選り直す→試す」というように、繰り返しながら動きのこつを試し、評価することで、自分の課題に合った動きのこつを見だし、もっとうまく動きができるようになる。
- ・僕は○○というこつをやってみたら、できるようになったよ。
 - ・うまくできるようになったぞ。うれしい。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- もっとうまくバランスボードに乗るために大切なこつを問う。
- 発問「集合。どうでしたか。うまくできるようになりましたか。最後にワークシート⑤を書きます。質問は3つあります。A. めあてはできるようになりましたか。B. バランスボードにうまく乗るために大切なこつは、何ですか。その答えをすべて書きましょう。C. どうしてそのこつが大切だと思ったのですか。下の3つから当てはまるものすべてに丸を書きましょう」
- ※ 以下のようなワークシートを配布する。
 ※ 書き方で分からないことがあったら、質問を聞いて答える。

- A. ぼくは（わたしは）、自分のめあてができるようになりました。 できるようになりませんでした。
- バランスボードで びょうでした。
- B. バランスボードにうまく乗るために大切なこつは、
-
- C. どうして、そのこつが大切だと思ったのかというと、
 ア、友だちに教えてもらったから
 イ、友だちの動きのこつをさんこうにしたから
 ウ、自分でやっているうちに気づいたから です。

このようになる (Cn)

- バランスボードにうまく乗るために必要なこつを考えて、ワークシートに記述する。
- ・僕は、（私は）自分のめあてができるようになりました。バランスボードにうまく乗るために大切なこつは、①右に板が傾いたら左に力を入れる（重心を左右に移動させる）こと②腕を広げてバランスを取る③膝を軽く曲げる④足を肩幅くらい広げるだと思います。どうして、そのこつが必要だと思ったかという、イの友だちの動きのこつを参考にしたからです。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、既存の類似した知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4において、関係付けるすべを使って、自分の課題と友達のバランスボードにうまく乗るこつをつなぐことができたかを、働き掛け1のワークシート②（動きのカルテ）、働き掛け2のワークシート③、働き掛け4のワークシート⑤の記述により判断する。
 具体的には、働き掛け2のワークシート③に、_____のような自分の課題を記述することができ、働き掛け4のワークシート⑤で_____のように、働き掛け1のワークシート②（動きのカルテ）とは別のこつに変えたり、増やしたりして、自分の課題に対応したこつを見だし、_____のようにアかイに丸を付けたかを判断する。
- ② もっとうまくバランスボードに乗ることができるようになったかを、実際の子どもの動きにより判断する。
- ※ 上記①、②の両方があれば、表れありと判断する。